

会 議 名	第四回足立区ギャラクシティ運営評価委員会		
開催年月日	平成 26 年 2 月 4 日 (火)		
開催場所	こども未来創造館 2 階 わーくしょっぷスタジオ		
開催時間	10 時 00 分開会～12 時 00 分閉会		
出欠状況	委員現在数	9 名	
	出席委員数	8 名	欠席委員数 1 名
出席者(敬称略)	出席	委員長	平沢 茂 (文教大学教授)
		委員	吉井 謙 (東京大学教授)
	欠席	委員	山田 心 (認定 NPO 法人 日本グッド・トイ委員会法人運営部長・東京おもちゃ美術館員)
		委員	伊東 正示 (東京理科大学非常勤講師 株式会社シアターワークショップ代表取締役)
		委員	鈴木 春男 (足立区少年団体連合協議会副会長)
		委員	青木 信夫 (足立区小学校 P T A 連合会会長)
		委員	稲塚 由美子 (ミステリー評論家・翻訳家・現在足立区民生委員)
		委員	染谷 江里 (一般公募)
		委員	坂田 卓也 (一般公募)
事務局	子ども家庭部青少年課	課長	大谷 博信
	青少年課ギャラクシティ支援担当	係長	茂木 聡直
	青少年課ギャラクシティ支援担当		首藤 美奈子
	青少年課ギャラクシティ支援担当		照屋 良太
	青少年課青少年教育担当	係長	村上 長彦
	地域のちから推進部地域文化課	課長	松野 美幸
	地域文化課文化団体支援係	係長	古川 裕子
	地域文化課文化団体支援係		榎本 佳菜
	地域文化課文化団体支援係		脇本 祥子

<p>会 議 次 第</p>	<p>1. 開会  2. 委員長挨拶  3. 前回の議事録  4. 事務局による指定管理者評価  5. 課題検討  6. 次回以降の評価スケジュール</p>
<p>配布資料</p>	<p>資料1 次第  資料2 第三回足立区ギャラクシティ運営評価委員会議事録（案）  資料3 文化事業 豊かな文化芸術に触れる機会の提供  資料4 文化事業 区民との協働による文化活動の振興  資料5 広報事業 利用者のニーズにあわせた取り組みと提案書の遂行  資料6 ギャラクシティ運営評価委員会得点集計  資料7 得点調整指数の設定について・評価の細分化について  資料8 数字以外の評価  資料9 次回以降の評価スケジュール</p>

<p>大谷課長</p>	<p>&lt; 1 . 開会 &gt;</p> <p>お忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございます。ただ今より、第四回ギャラクシティ運営評価委員会を始めさせていただきます。</p> <p>まずは資料を確認する。資料は1から9まであるので、ご確認いただきたい。</p> <p>(各自資料を確認)</p>
<p>大谷課長</p>	<p>&lt; 2 . 前回の議事録 &gt;</p> <p>なお、資料2の議事録については、修正箇所があれば2月末までにご連絡いただきたい。修正後に情報公開する。</p> <p>(傍聴人入場)</p>
<p>平沢委員長</p>	<p>&lt; 3 . 委員長挨拶 &gt;</p> <p>では、前回の議事録については事務局まで連絡お願いしたい。続いて、文化事業について報告をお願いする。</p>
<p>古川係長</p>	<p>&lt; 4 . 事務局による指定管理者評価 &gt;</p> <p>文化事業につき、資料3・4に基づいて説明。</p> <p>資料3は、評価項目：豊かな文化芸術に触れる機会の提供に関する資料。</p> <p>資料4は、評価項目：区民との協働による文化活動の振興に関する資料。</p> <p>なお、第一回運営評価委員会の際には、上記2項目に「快適なホール施設運営」を加えた3項目を軸に文化事業の指定管理業務を委託しているとお伝えした。しかし、第3項目の「快適なホール運営」については、ギャラクシティ全体の管理運営評価項目に含めることとした。そのため、2項目についてのみ説明させていただく。</p> <p>資料3の2ページ目についてだが、実績は上半期のもののみ掲載していることをご了承いただきたい。10月以降の実績は、最終的に評価する際にご確認いただきたい。</p> <p>「定員」は西新井文化ホールの席数「902」を基本としているが、1階だけ使う事業やワークショップの体験事業などでは、それぞれの事業に見合った人数を設定している。</p> <p>また「目標」は、定員とは別途に設定するのが一般的であり、指定管理者が事業毎に設定している。伊東先生からも定員の7割程度に設定するのが一般的であると伺っているので、そのように了承している。</p> <p>なお、広報欄にて「PICK UP!」と記載した3事業については、指定管理者が提出した事業報告書を4ページ目以降に添付しているので、ご確認いただきたい。</p> <p>資料4についても同様に、「PICK UP!」と記載した事業報告書を添付している。</p>

平沢委員長	資料3・4についてご説明いただいた。まずは資料3についてご質問・ご意見があればお願いしたい。 資料3の2ページ目、イのNo.1「人形劇(パンチ劇)」の定員が200名に対し、目標が100名となっているが、目標が定員の7割になっていない理由は何か。
古川係長	ホールの席数に対して7割程度を目標とする原則ではあるが、ワークショップには必ずしも当てはまらなないと考えている。ワークショップについては、文化ホールではなく、控え室や稽古場を会場として使っている。それぞれの会場に入る適正な人数として、目標数字を設けている。
平沢委員長	実績としては150名であり7割を超えているが、この点の妥当性について伊東委員からお話はあったのか。
古川係長	特になかった。ワークショップに限らず目標を設定することはよいが、それに近い実績を上げられるように努力するべきであるという意見はいただいた。
榎本主事	補足だが、夏休みイベントに関しては、通常の公演事業とは異なり、ほとんどが電話や往復はがきなどの事前申し込み制だった。しかし、人形劇については当日お越しくださいという案内だけだった。そのような事情もあり、人形劇の目標が低くなったのではないかと考えている。
平沢委員長	了解した。他にご意見はあるか。
鈴木委員	有料で行っている公演が多いが、4月から消費税が上がるという想定に基づいて価格の適正さを踏まえているのか。また、チケットの入場料が公演によって分かれているが、この点に関する適正さについてアンケートを取っているか。
古川係長	金額自体についてのアンケートは取っていないが、公共施設であるため、一般的な公演事業よりは金額を下げている。価格設定については指定管理者に任せている。ただし、事前に事業予定を報告していただいているので、何か問題点があれば意見を出している。全体的には、他の施設に比べて抑え目の金額でやっていただけていると考えている。鈴木委員がおっしゃるように、消費税が上がる点については今後考慮したい。現在のところ、金額が高くて行きにくいという声は聞いておらず、皆様にお越しいただいているので、価格設定が適正でないという認識は持っていない。
吉井委員	目標達成率が高いものと低いものがあるが、低いものについての原因を検討し、個別に分析をしているか。
古川係長	指定管理者に分析を依頼しているが、1年目ということもあり、演目に魅力がないのか、それとも広報活動が足りないのか検証できていない部分がある。その点については、今後指定管理者と検討していきたい。指定管理者もこの施設を運営するのが初めてなので、足立区民

	<p>の嗜好などについては手探りである。また、各事業は1年から1年半前に予定を組んでしまうので、途中で変更ができないといった事情がある。2年目以降は今年の分析を踏まえ、少し違ったラインナップで検討していきたい。</p>
松野課長	<p>指定管理者とは、文化ホールについて毎月打合せをしている。その中で、入場者数が悪かったのは時間帯が悪かったのではないか、指定管理者の他館での経験はどうか、といった話をしている。打合せの内容は、来年以降反映したいと考えている。</p>
吉井委員	<p>さっと見たところ、入場者数が悪いのは価格設定ではないと感じられる。価格がかなり高くても、入場率が非常に高いものもある。</p>
松野課長	<p>理由としては、広報周知が足りない、時間帯や嗜好に合わない、などの複合的なものだと考えている。事業毎に検討する必要がある。</p>
榎本主事	<p>先ほどの目標値についての補足だが、目標人数が入れば収支の面で事業が成立するという意味での目標値である。7割という数値は各事業によるが、目標値をクリアすれば大きな赤字が出るということはない。</p>
稲塚委員	<p>地域学習センターなど、足立区内でチケットを売っている場所があるが、そのような窓口を担当者が直接行ってアピールするようなことをしているか。</p>
古川係長	<p>そのような活動は現在できていないと思う。区内2箇所まで売っていただいておりますが、連携はあるが、例えば公演数日前に販売状況を聞きながら、窓口で販売促進をするような活動はできていない。</p>
稲塚委員	<p>窓口にお年寄りの方やお母さん方がいらっしゃった際に、担当者の方が直接魅力を伝えられるような繋がりが非常に大事だと思うので、お聞きした。</p>
古川係長	<p>貴重なご意見として、指定管理者に伝えさせていただく。</p>
坂田委員	<p>3点お聞きしたい。まず、開催日が過ぎている部分の実績が入っていないのは何故か。</p>
古川係長	<p>前回の委員会で検討した子ども体験事業資料と合わせ、上半期の実績に限り載せているためである。</p>
坂田委員	<p>了解した。もう1点、集客に関しては広報が大事だと思うが、あだち区報に掲載している子ども体験事業のように、文化事業も定期的に広報活動をしているのか。また、アンケートでは何の広報を見て来たのか、といったフィードバックはあるのか。</p>
古川係長	<p>広報については文化事業の説明後に、広報全体で説明させていただく。</p>

坂田委員	了解した。最後に3点目だが、収支を見ると赤字のところもあり、ざっくり見ると上半期全体でとんとんになるのかなという感じがする。イベント事業は支出が増えているが、トータルで収支が合って、赤字を出さなければ良いという考え方なのか。
古川係長	確かに赤字が出ている事業もあるが、上半期全体では赤字が出ていないので良いと考えている。また、毎月の事業報告の中でも数字をいただき、意見交換をしている。指定管理者としても、上半期の状況を見ながら下半期の事業やっているはずなので、単純に赤字が出続けるということはないと考えている。しかし、1年間通してやってみないと分からない点はある。
坂田委員	上半期や四半期毎に収支を確認しながら、事業内容を変えたりしているのか。
古川係長	事業内容については決めるのがかなり早く、事業自体を変更するのはなかなか難しい。しかし目標設定の数字が設定されているし、また新聞広告を買うなど、指定管理者もいろいろと試みて赤字が出ないようにしている。2年目以降に考えなければいけない問題ではある。
坂田委員	子ども向け事業は評価で3が付き、個人的にも楽しくて良い事業だと思うが、赤字が広がってしまう事業なのかなという思いがある。
古川係長	公共施設ということもあり、人がそれほど集まらないものでも教育的意義でやることもあるので、その点を含め相対的に見ていただきたい。
坂田委員	イの子ども向け事業の中にはボランティアの方も参加されているのか。
古川係長	今年の事業の中にはボランティアの方は入っていない。
坂田委員	ボランティアの方を活用できると良いかと思う。
平沢委員長	1点質問させていただきたい。文化ホールはリニューアル前からあったと思うが、その頃からのノウハウはこの中に反映されているのか。
古川係長	これまでホールの公演事業については、足立区の生涯学習振興公社が継続して実施していた。今年度は指定管理者制度に変わり、初めてのホール運営である。ホールの特性については、公社の職員が一番良く知っている。そのため、指定管理者が決まってからは、公社の職員とも定期的に打合せをさせていただき、そのような場でノウハウやホールの状況を引き継いでいる。また、公社はホール事業からは離れたが文化事業からは離れていないので、そこでも意見交換をしながらノウハウが引き継がれている。
平沢委員長	先ほども吉井先生から演目の点についてご質問があったが、ノウハウが活かされているのかどうか。
古川係長	指定管理者は、これまでのホール事業を意識し、公社の事業から大きく路線変更をせずに事

	業を実施している。
吉井委員	平沢先生のお話と少し被るが、事業の提案本数が年間26本という数字は、以前の経験に基づいて出している条件なのか。
古川係長	公社の時代からその程度の事業を実施していたので、数を落とさずに実施するために設定している。
平沢委員長	では、資料4についての意見をお願いしたい。
山田委員	資料4の採点表について。指標1と指標3に2の評価をつけている点で、数値化できないために評価が難しい部分だと思うが、指標1が2になった理由と、指標3の「交流の機会」とは何との交流かを聞きたい。
古川係長	<p>まず指標3についてだが、指定管理を公募する際に水準書、つまり仕様書のようなものを作成した。文化ホールはただ公演をしていただくだけではなく、区内でもこれだけの席数があるホールはない上、区民の方に使っていただいて稼働率が高いという特性がある。そのため、文化事業をこれから始めたい人、情報を欲しい人が交流できる拠点としても文化ホールを育てていただきたいという思いから指標3を設定した。そのような状況で、交流のために集まるスペースを確保しにくいという課題もあるが、まだ交流機会の創出については十分にできていないので評価を2とした。</p> <p>指標1については、以前から区や公社が支援していた団体について、現在は指定管理者に支援をお願いしているが、団体との意思疎通があまり上手くできていない。チケットを売るなどの支援はしているが、今後はもっと民間ならではのアイデアを入れて育ててほしいといった思いもあり、まだ物足りないと感じるために評価を2とした。</p>
吉井委員	指標1に音楽3団体と書いてあるが、これは3団体だけなのか。
古川係長	かなり前から、足立区・教育委員会・振興公社の三者で3つの団体を支援してきた。1つは、小中学校を卒業した方たちに活動する場を設けるために設立された足立吹奏楽団。2つ目は、区民によるシティオーケストラ。3つ目は、合唱の人口がかなり多いために設立した区民合唱団。この3団体を数十年支援してきた。
吉井委員	三団体が四団体になることはないのか。
古川係長	基本的にはない。
平沢委員長	シティオーケストラには年間どの程度の補助金が出ているのか。
古川係長	指導謝礼を出しているが、直接的な支出金額はそれだけである。定期演奏会や練習会場は施設料をいただいている。そのような形で支援している。

平沢委員長	了解した。しばしばオーケストラというものは、他の活動を圧迫するような大きな予算を必要とするため、足立区の現状が気にかかった。
古川係長	指導謝礼しか支出していないが、施設の利用料金を取ってないという点はかなり大きな金額になる。なお指導謝礼については、申し訳ないが毎年減らさせていただいている。定期演奏会だけではなく、自主的にいろいろな場所で公演をさせていただいているが、団体の収入は多くはない。
平沢委員長	1点確認したいのは、その場合の補助金は指定管理者からではなく、当然区から出るのか。
古川係長	そうである。
吉井委員	指定管理者はホールを貸すというレベルでの支援をしているのか。
古川係長	そうである。また、演奏会の周知をしていただく他、後述するギャラクニュースにおいて定期演奏会の案内をしていただき、ホールスタッフには非常にお世話になっている。
平沢委員長	了解した。他の意見をどうぞ。
稲塚委員	今の件に関係するが、音楽三団体は足立区出身の方が多く、足立区出身の音楽家を育てるような面が大きいと思う。何度も公演を見ていると、その方々が自ら運営をしている組織であり、慌しい感じを受ける。そのため、楽しめるように上手くコーディネートできる方がいると良いと思う。委員長がおっしゃったように、区でコーディネートをすることはできるのか。先ほどもコーディネートが必要であるという話があったが、交流があって楽しむことのできる、足立区出身の公演になると良い。
古川係長	基本的には、これ以上区が直接的に支援することは考えていない。現在は指導謝礼のみを区から出させていただき、活動を見守っている。だが、実際に演奏や練習をするのはホールであり、指定管理者から助言やアドバイスをしていただきたいと考えており、水準書にもそのように書いてある。
稲塚委員	了解した。
平沢委員長	よろしければ、広報の話に移りたい。
茂木係長	広報事業につき、資料5に基づいて説明。 なお、他の評価項目では水準書を示しているが、広報では示していない。そのため4月から9月の上半期で「利用者のニーズに合わせた取り組み」「指定管理者提案書の遂行」の2点で評価をした。来年度に向けては、水準書を作成して現場と検討する予定である。 視点1：利用者のニーズに合わせた取り組み



	<p>来館のきっかけは「友達の話」「家族」など、いわゆる口コミが多い。  足立区内・区外の来館比率は、土日祝日は6～7割程度が区外、それに対し平日は6～7割程度が区内からの来館者である。  また、区外からの来館者は10km圏内の来場者数が多く、10kmを超えると来館者数が著しく下がる。</p> <p>視点2：提案書の遂行  下記については、今後特に力を入れてもらいたい。</p> <p>提案そのの2 本施設の最新情報の更新  情報の集約が弱く、また掲載も遅い。</p> <p>提案そのの4 総合情報サイトや類似施設との連携  相互リンク等のリストアップにとどまっている。</p> <p>提案そのの2 区内および周辺地域（城東地区）を対象とした情報誌への広告出稿（1回/月程度）  不定期にしか実施されていない。</p> <p>提案そのの5 主要交通機関（東武鉄道社内、北千住駅構内）における広告物（ポスター）掲出（1ヶ月×2回程度）  提案書通りに実施されておらず、冬に1度掲出したのみである。</p> <p>提案そのの8 アウトリーチ型事業の増加による、新規来場者層の開拓  未実施であるが、下半期には配布用のビニールバッグを作成するなど改善点も見られる。</p>
古川係長	<p>坂田委員からご質問のあった、文化事業の広報について補足させていただきたい。文化事業の周知についてもホームページを使っているが、ものによっては年齢層の高い方に来ていただくこともあり、紙媒体の方が有効であると考えている。ギャラクニュースでも文化事業の面を大きくし、写真を載せていただいている。この他、あだち広報では支援団体の定期演奏会を掲載している。また、今後はアンケートで来場のきっかけをまとめていきたい。</p>
平沢委員長	<p>今のご説明に関してご質問はあるか。</p>
山田委員	<p>マスコミ掲載のところに載っているものはこれで全てか。</p>
茂木係長	<p>9月時点ではこれで全てである。ローカル紙やフリーペーパー掲載分で漏れているものもあるが、館側で把握しているものは以上である。</p>
山田委員	<p>もっと掲載できるのではないかと思う。そのためこの評価についても納得で、もっと厳しくしても良い気がする。特に新聞の掲載が少ない。文化施設ならではの思いなどを、力を入れて伝えないと、単なる遊ぶだけの施設に終わってしまう。ホームページに関しても、ホールと合わせての来館者数であれば、こども未来創造館に来ている人数と比べると少ないと感じる。</p>
茂木係長	<p>ご指摘のあった新聞については同じように考えており、現在改善に取り組んでいる。従来はトピックスがあった時にだけリリースしていたが、現在は定期的に毎月情報を集約し、リリ</p>

	<p>ースをしている。また、マスコミとの関係作りについても検討している最中である。</p>
山田委員	<p>今後に期待する。</p>
坂田委員	<p>リピートの分析はしているのか。</p>
茂木係長	<p>分析をしている。12月末時点では、来館者の45%程度はリピーターである。</p>
坂田委員	<p>やはりイベントなどでは口コミが一番多く、リピートに繋がると思う。そのため、リピーター対策をもっと明確にした方が良いと思う。例えば、現在はホームページやフェイスブックなどのITツールを使っていると思うが、この他にITツールやその他の手段を使ってリピートの促進をしているか。</p>
茂木係長	<p>口コミについては、館の1階に口コミ掲示板を作ろうと検討している。この施設でこういう遊びが楽しかった、親子で遊ぶともっと楽しめる、などの意見を掲載したいと考えている。</p>
坂田委員	<p>了解した。会員サイトでダイレクトメールを送るとか、スタンプカードを用意するとか、リピーターを獲得するための施策をもっと考えられると良いと思う。</p>
茂木係長	<p>本当にありがたいアドバイスである。広報的なリピーター対策と、事業のソフト面のリピーター対策という2点があると思うので、来年度に向けて検討していきたい。</p>
稲塚委員	<p>資料5の来館比率には、幼稚園や小学校の団体利用も含まれているのか。</p>
茂木係長	<p>団体利用は含まれておらず、個人利用のみである。</p>
稲塚委員	<p>小学生たちが個人的に、もしくは親御さんと来ている数字ということで理解した。</p>
茂木係長	<p>団体利用も入れると、足立区内外の比率が同じくらいになるのではないかと思います。</p>
稲塚委員	<p>子ども達がたくさん来ているが、それを後に繋げるような取り組みはないのか。</p>
茂木係長	<p>現在検討しているのは、団体でいらっしゃったお客様に対して、後に親御さんと来ていただける仕掛けである。例えば、団体の子ども達にプラネタリウムやショップの割引券を配るなどといった手段を検討している。</p>
稲塚委員	<p>坂田委員もおっしゃったように、ちょっとした仕掛けが必要なのだと思う。またギャラクニュースについてだが、特にお年寄りには字が読みにくいという意見がある。情報がたくさんあるので仕方ないとは思いますが、もっと大きな字で1枚だけ印刷するなどすると良いと思う。楽しみに来ている方もたくさんいる。それから、入口で行う無料コンサートについても、楽しみにしている方がたくさんいるので、</p>

	<p>その後に繋げるちょっとした工夫があると良いと思う。よろしくお願ひしたい。</p>
茂木係長	<p>現場にフィードバックして、検討していきたい。</p>
平沢委員長	<p>今の話に関連することだが、区外からの団体利用があるのか。</p>
茂木係長	<p>そうである。例えば、八潮市の小学校2年生は全員ギャラクシティへ郊外学習に来ている。草加市についても割合は不明だがプラネタリウムに来ている。また、土日では学童関係の団体も来ている。</p>
平沢委員長	<p>そのような統計についても見えると良い。またもう1点、ギャラクニュースが非常に読みにくい。ピンクの上にピンクの文字ということもあり、字が小さいだけではなくて読みにくいので、改善をご検討いただきたい。また、来館のきっかけのアンケートにおいて、ギャラクニュースはその他の中に入ってしまったのか。</p>
茂木係長	<p>9月末時点では、アンケートの項目に入っていなかった。10月以降は項目を入れており、こども館のお客様については、ギャラクニュースを見て来たという方が6～8%程度いらっしゃる。</p>
平沢委員長	<p>了解した。その他、どの媒体を見てどういった年齢層の方が来ているのかという分析をした方が良いと思う。統計はあるのか。</p>
古川係長	<p>各事業でアンケートを取っているはずである。また、高齢者の方への配慮については反省点もあるが、3ヶ月毎にギャラクニュースを発行しており、発行後にはチケットの売り上げが伸びている。インターネットでもチケットを販売できるようになり、分析には至っていないが、若い方にもギャラクニュースを読んで買ってもらっているのかなと考えている。そのため文化事業については、ギャラクニュースは有益だと考えている。</p>
吉井委員	<p>プログラムの実施に対し、広報の方が改善の余地があるのだと感じる。そして様々な改善策のうち、ものによってはちゃんと効果があることが分かった。今までの経験から言うと、どういった点を努力すると人数が上がるかという点実績が蓄積されている。その中で大事な点は、メディアに出ることは効果が高いという話であった。その点を、今後どの程度持続できるのが大事である。定期的にプレスリリースを重ねるだけでは不十分である。これは必ずしも提案ではないが、プレス向けのワークショップを実施し、4月以降にどのような展開でこどもを教育する取り組みをしたか、学んだことをメディアに伝える。そのように宣伝をすると良いのではないかと。また人間関係を作ることも重要である。プレスリリースを読んだだけでは、大抵は記事にならないため、積極的にアプローチしたほうがいい。また、4月に開業されたばかりであり、現在は広報その他によって集客を増加させていると思うが、その後が問題である。広報が上手くやったとしても、その後集客は落ちていくだろう。前もってどのような手を打つか、という点について足立区はどの程度考えているのかが気になる。現在は広報の改良だけでどうにか対策しようとしているように見える。</p>

茂木係長	メディアについて、非常に良いアドバイスをいただいた。広報担当者とその件について打合せしたい。また2点目に、広報は一時的なものであるとおっしゃったが、今後の対策については検討を始めたところである。指定管理者と中長期計画を作成している最中であり、利用者の推計や広報面・プログラム面・子どもの教育面などを合わせ、多面的に検討を始めている。この内容は今後皆様に報告できるように、来年度以降に向けて考えていきたい。
吉井委員	是非努力していただきたい。
平沢委員長	やはりメディアは日常的な人間関係で動くというところがあり、せっかく吉井先生がおいでになるのだから、是非メディアとの繋がりを活かす取り組みがあると良いと思う。
吉井委員	国立天文台等では、メディアを集めたそのような取り組みを行っていて、やはりそういう取り組みは必要だと思う。
平沢委員長	<p>メディアは継続しにくいものだから、今のような発想は重要である。何とか工夫がつくと良いと思う。</p> <p>では、次は評価の課題検討についてお願いしたい。</p> <p>&lt; 5 . 課題検討 &gt;</p>
大谷課長	<p>評価の課題検討につき、資料7に基づいて説明。</p> <p>資料7は、「得点調整指数の設定」と「評価の細分化」に関する資料。</p> <p>得点調整指数は必要であり、評価分野によって1～3を割り当てている。</p> <p>また評価についてはA～Cを+と-に分け、より分かりやすく分類した。</p>
平沢委員長	事務局の改良について、ご意見はあるか。
吉井委員	<p>全体のことで1点申し上げたい。まるちたいけんドームについて、前回足立区側で発表された村上さんの意見はかなり厳しい表現と評価だったと感じている。数字上は168点となっているが、広報事業よりも点数が上というのは印象とは異なり、むしろまるちたいけんドームの方がC-といった印象がある。まるちたいけんドームに子どもたちがあまり来なくて困っているという話があり、改善案が提示されていなかった。それに対し、広報事業もネガティブな意見があったが、改良の余地が示されている。そのため、広報事業とまるちたいけんドームが両方ともC+というのはおかしな感じがする。</p>
村上係長	<p>個々の評価をして、各項目の点数を積み重ねるとこの点数になる。現状では改善案は見えていない点もあるが、今年度中の改善の可否とは別にして、来年度に向けて調整中である。来年度の計画で、これまでの課題を反映していきたいと考えている。</p>
吉井委員	努力目標としてではなく、改善の方向は見えているのか。

村上係長	まだ見えていない。足立区側と指定管理者側の考えのすり合わせはできていない。
吉井委員	先ほどの改良が見えている広報の話とは異なり、まるちたいけんドームは非常に問題がある。数字はこれで問題ないが、改善の方法が見えていないということをここで共有しておきたい。
村上係長	広報に関しては、9月以降の取り組みが本日の説明に入っており、その点が大きくまるちたいけんドームと異なる。
吉井委員	数ヵ月後に実際の評価の話をすると思うが、それまでに改善の方向性を提示できるのか。
村上係長	提示できる。現在、来年度の事業計画策定そのものが差し迫っている状況である。その中で、館全体の入場者数に対してまるちたいけんドームの入場者数が圧倒的に少ないという問題につき、どのような分析をし、改善していくかを考えていく。広報だけではなく、ターゲットに合わせた運用についての話を始めているところである。現在のまるちたいけんドームは、年度当初の計画をそのまま動かしているだけである。
吉井委員	了解した。
平沢委員長	まるちたいけんドームの数字は、3倍すると168点になる。素点だけで評価するというわけではないが、この素点には少し違和感がある。例えば、Cの場合は若干マイナスポイントを付けるというような方法も考えられる。そうすると、3倍してももう少し低い素点になる。評価というのは少し点数をいじると全く違った印象になるので難しいが、やはり少し気になる点である。
稲塚委員	素朴な疑問だが、とても重要な4番の文化事業が得点調整指数2となっていて、3ではないのは何故なのか。
平沢委員長	この得点調整指数について、事務局側ではどの程度議論があったのか。
茂木係長	文化ホールについて本来は3で良いと考えているが、「文化ホールの快適な利用」という観点は文化ホールの評価から外し、管理運営体制の「快適に安心して過ごせる環境づくり」の中で評価している。そのため、文化ホールは2としている。1と3の指数については、数字的なアプローチがあって決まったものではない。どこの施設でも当たり前に行うべきことか、もしくは施設固有のものかという感覚的なものから、1と3の指数を設定している。事務局としては、区民サービスに直結する部分を3としたいと考えている。
平沢委員長	やはりABCランクを考慮する際、シンプルに指数を掛け合わせるだけではなく、何らかの軽重を付けた方が良いのではないかと。つまりポイントになる事業であればあるほど重要であるので、高い数字が出てしまうよりは、低い数字が出た方が良いと感じる。その点について工夫していただきたい。

茂木係長	了解した。
吉井委員	平沢先生がおっしゃる通り、印象と数字が合致する形になると良い。調整のせいだとは言わないが、まるちたいけんドームの印象が他の事業に比べて遜色ない点数が出るのは抵抗がある。もし、評価の前にまるちたいけんドームの将来の方向性についてご説明をいただくことができ、印象と数字が合ってくれば良いが、そうでなければ数字をいじったという印象になってしまう。
平沢委員長	もう一度事務局内で今の意見を調整し、勘案していただきたい。 他に意見がなければ、資料8についてお願いしたい。
茂木係長・古川係長	数字以外の評価につき、資料8に基づいて説明。 事業のソフト面に対する評価が、数字以外の評価になると考えている。 そのために、区要求水準書の理解度や達成状況を検討する必要がある。区要求水準書内の「こども未来創造館の方針」や「事業の基本的な考え方」から選定した3つの重点項目に基づき、数字以外の評価をしたい。 また、各評価に数字以外の委員所見欄を設け、積極的に皆様にご意見をいただきたいと考えている。
平沢委員長	何かご質問やご意見はあるか。
染谷委員	重点3項目は誰が選んでいるのか。
茂木係長	事務局で選んで提案している。
染谷委員	収支に対する評価はないのか。
茂木係長	それについては「報告書」を作成して皆様にお伝えしたいと思う。その点まで評価を広げると、十分に評価する時間が足りないと考えている。
平沢委員長	よろしければ、本日の議論はこのあたりでおしまいにしたい。  < 6 . 次回以降の評価スケジュール > 次回以降のスケジュールにつき、資料9に基づいて説明。 5月に開催予定の第5回運営評価委員会は、4時間の開催とさせていただきたい。 次回開催日については、後日調整の上決定する。

以上